

第6回沼南近隣センター整備検討会 会議録

日時

令和8年8月8日(土)午前10時から午前11時50分まで

場所

沼南庁舎 大会議室

参加者

検討委員 10名

・風早北部地域ふるさと協議会 4名

・ひまわりプラザ利用者団体連絡会 2名

・大島田区, 風早中学校 PTA, 風早北部小学校 PTA, 大津ヶ丘第一小学校 PTA 各1名

事務局 7名

・市民生活部長他

傍聴者 2名

議事概要

1 開会

2 市(事務局)説明

当日資料に基づき説明

3 協議

風早北部地域ふるさと協議会長を座長として協議を進行

(座長)

市からの説明に対して質問・意見があれば協議を行う。

- ・子どもルームについて、アフタースクール課に確認を行い問題ないということだったが、何について問題がないのか。

(市) 今後、近隣センターを整備していく場合、既存の子どもルームが使えなくなったとしても、学校側の子どもルームで対応可能であることをアフタースクール課に確認済み。また、詳細については今後各学校にて説明を行う予定であり、日程に関しては現在調整中とのこと。

- ・学校の運営協議会に参加する中で、学校側の子どもルームの利用者が急増していることから、現状として過密状態である。PTA の会議室を学校側に引き渡す検討がされるほど、校内の施設が不足しており、そこに子どもルーム等の部屋を増設するのは難しい実情のため、北部小学校の受け入れ環境は非常に厳しい状況であるということをご理解いただきたい。

(市) 引き続き様々な関係部署と連携を取りながら、情報の整理、収集を行っていく。

- ・今後協議を重ねていく中で、これまでの内容が大きく変更される可能性もあるということか。

(市) お見込みの通りであり、専門的な知見や各部署からの情報を活用し、他にもより良い候補地や建設方法がないかも含めて検討を行いながら、基本構想・計画策定を進めていく。

- ・2 ページの整備イメージは理解できるが、各部屋の面積について、検討会ではこれでもよいと結論を出したとは思っていない。5 ページのホールについては、300平米であり、可動式の椅子が設置されるのであればもっと具体的な絵を描いてほしい。検討会として、面積に関する意見は出したが、それが反映されていないので、検討会で決めたというような結論は出してほしくない。

- ・面積については案を提示されたが、それに対し検討会では決定はしていない。

- ・5 ページのホールや 6 ページのフリースペースのイメージ資料が毎回添付され、決定事項のように扱われているが、貸室の再整備後の面積に関してはこれでよいという話はしていないと思う。

(市) 全体的な延床面積約 2000 平米については、概ねご了承いただいたと認識している。以前、市としては、低い稼働率の部屋は集約して稼働率を高めていくという計画であり、他の近隣センターの状況からするとこの程度の部屋数・面積となると説明した。また、延床面積約 2000 平米は平均的な近隣センターの倍近い。果たして何平米が適当なのかというのは、なかなか議論していく上で難しいが、今後の基本構想・計画策定の具体案提示の場で改めてご意見をいただきたい。

- ・3 ページに示された低い稼働率は、夜間コマも含めた数字であり、多くの団体が利用する午前と午後だけを見れば稼働率はもっと高い。この数字だけで稼働率が低いと判断しないで欲しい。

(市) 先ほど説明したスケジュールでは、部屋数や面積が確定しない場合には次の段階へ進めない。部屋数、面積についてどのくらい時間をかけて調整していくかによって、スケジュールは大幅に変わってくる。市としては、これまでの議論を活かしたいと考えている。

(市) 第 4 回の検討会では、最後に想定規模・機能について、今回市から示された方向で進めていくことで良いかと確認を取った際に、異論が出なかったため、この面積で進めていくものと認識している。

- ・沼南地域の旧公民館がなくなることを踏まえ、新しい近隣センターは地域のシンボルタワーとして、他の地域のコミュニティセンターより少し大きくしてほしいという意見を述べたが、その発言は議事録には記載されていないのか。

(市) その話は記憶しているが、具体的な延床面積についての協議はなかったことから、概ね了承されたものとして進めている。延床面積については、柏の葉に整備予定の近隣センターと同程度であり、他の近隣センターより大規模な延床面積で進めていくことについて、了承を得たと認識している。

- ・以前の話し合いで、市から施設のイメージ案について説明を受け、音楽室の分割利用では音漏れなどの問題があるのではないか、部屋の広さや部屋数を増やせないかという意見があったと思うが、これらの意見について、現在検討中などの記載が資料にあれば受け止め方も違ったが、以前の資料のまま進める旨説明されたため、検討会の意見が反映されていないと感じられるのではないかと。また、面積について意見がなかったという話についても、その後は別の議題に移っており、面積について話し合う機会自体がなかったと思うことから、意見としては難しいと思う。
- ・市が市民の意見を無視して一方的に進めているとは考えておらず、今回の問題は特に争点となっているホールの面積について、十分に話し合う機会がなかったことが原因と考えている。音楽は大事であることや音楽団体側の要望があることも理解しているが、市民全体が利用する施設である以上、特定の団体だけのための施設にならないよう、全市民にとってのバランスも考える必要がある。現状でも、市は音楽活動ができる施設となるよう一定の譲歩をしていると思う。今後、設計事務所が決まり、実際にどの程度のスペースを確保できるか具体的な検討が進む中で、音楽団体側がその活動を通じて市民にどのような価値や還元を提供できるのかというところが、施設整備への投資に対する市民全体の理解に繋がるのではないかと。
- ・貸室イメージの図について述べた意見は、多目的ホールに八分音符が2つ描かれていることで、2団体が同時に練習できるように誤解を招く可能性があるため、避けてほしいと指摘しただけである。部屋数が足りないや、面積が小さくて音楽団体が困るということとは言っていない。
- ・当時、演奏・音楽ホールとしての利用には向かないという意見を聞き、スペースが不足しているという印象を受けたが、仮に300平米程度の広さであっても、面積そのものは問題ないということか。

(市) 市では旧沼南近隣センター大ホールの実際の利用状況を根拠にしている。100人を超える規模での利用は16%程度であり、300人以内の利用は99%となっているため、利用需要を概ね満たせるとして300平米を設定した。

- ・貸室イメージの図では、音楽できる部屋がたくさんあるように見えるけども、音が混じってしまうから、いくつもの音楽団体が使えるわけではないということを誤解がないようにしていただきたい。
- ・提示された数字は検討会での決定事項ではなく、あくまで案であり、今後、建屋のスペースなど具体的な条件を確認しながら、検討会から出された意見をできる限り設計に反映されるようお願いしたい。現時点ではまだ具体性が十分ではないため、今

後より詳細が明らかになった段階で、検討会として意見を出すことになると考えている。また、部屋数や規模については検討会で決定することはできないため、今回の意見を踏まえ、今後の進め方に反映してほしい。

- ・今後、このイメージをもとに設計を進める中で、イメージは決定ではなく、次に進めるためのイメージでワークショップ等で検討を重ねていければよいと思う。今回の資料ではそれぞれがつながっていない別々のイメージ図になっているため違和感があった。行政から整備案が提示され、それについて検討会から意見が出されたということで検討会が決定したとする表現は違うのではないか。また、基本構想における基本理念については市が決めるもので、検討会では議論していない。

(市) 市としては、現時点で示している施設の面積は、建設候補地に実際に建設可能かどうかを検討する上で重要な材料であると考えている。今後も多少の調整は可能だが、ホール等の規模を大幅に変更する場合、これまでの構想を見直すこととなり時間がかかる可能性がある。多くの方に喜んでもらえる施設を作っていきたいと考えており、これまで示してきた稼働率や利用件数、他の近隣センターとのバランスを鑑みながら、できる限り皆様の意見を反映した規模・機能を検討してきた。最終的な決定は柏市が行うものの、構想案がまとまった段階で、改めて検討会の皆様から意見を伺い、取り入れることが可能な意見についてできるだけ反映したいと考えている。

(座長)

今後行われるワークショップの実施方法等について、検討会委員に意見を伺う。

- ・今こちらがもらっている資料は柏市が作成した案とのことだが、先ほどの話の中で、整備イメージについて大きな変更はできないという説明があった。これを踏まえて、ワークショップの目的を教えて欲しい。

(市) 柏市としては、整備検討会でこれまで出された意見を大切にしたいと考えており、ワークショップで機能や規模について初めから議論すると、これまでの検討内容が振り出しに戻ってしまう可能性がある。そのため、これまで検討してきた内容を一定の軸としてワークショップを進め、その上で、現在の利用者だけでなく、これまで施設を利用していなかった新たな参加者からも意見を聞き、整備検討会の意見とワークショップ参加者の意見を両方踏まえながら、施設の具体的なあり方を検討していきたい。

- ・どのような意見なら反映することができるのか。ワークショップでは何を聞きたいのか。

(市) ワークショップでは、出された意見を全て反映することは難しいと考えている。例えば飲食や話しながら楽しみたいという意見と、静かに利用したいという対になるような意見が出た場合、両者の意見を全て達成することはできない。その中でも、ゾーニング等の具体的な方法を検討することで、参加者の意見をできるだけ基本構想に反映していくことがワークショップの目的と考えている。

- ・ワークショップの目的を踏まえると、テーマの枠組みは単なる案として示すのではなく、参加者から具体的に意見を聞きたい内容をテーマとして明確に設定する必要があるのではないか。今回の提示された資料は全体的に内容が曖昧な印象である。参加者も何について意見を出せばよいのか分からず、参加者を集めることも難しい。ワークショップを成立させるには、何を聞きたいのかという大きなテーマを 2～3 項目程度に絞って明確にする必要があるのではないか。

(市) 提示した資料のワークショップ案が曖昧な印象かと思われる要因としては、整備検討会で自由な発想や意見を最初から制限したくないという意図によるものである。一方で、テーマを具体的に設定しなければ、参加者が何について話せばよいのか分からず、議論が広がらないという点については、ご指摘の通りである。今回の意見を踏まえ、ワークショップで何を聞きたいのか、どの程度まで具体化するのかを整理していくことが重要である。

- ・ワークショップでは、施設を利用したことがない方も対象とすることが重要だと思う。提示された案について、具体的な規模や機能について直接議論するというよりも、以前のアンケートのように施設に何を期待するか、どのようなことをしたいかといった利用者のニーズや希望を中心に意見を出してもらうということか。

(市) その通りである。ただし、貸室の数や構成等について検討すべきという意見が多数出た場合には、その意見を踏まえて検討をしていく可能性がある。ただし、貸室の数などを抜本的に見直す場合などは、今後のスケジュールに影響が出る可能性がある。

- ・資料の 5, 6 ページに示されているホールやフリースペースはあくまでイメージであり、実際に想定している面積に基づいた具体的なイメージではないため、このままでは具体的な議論がしにくいのではないかと。実際に提示されている平米数に合わせた図や写真を使い、現実的なイメージを早い段階で提示してもらうことで、より具体的な有意義なワークショップに繋がるのではないかと。

(市) ワークショップでは、図面やイメージ図などを用いて議論することが妥当だと考えている。今後、基本構想・計画の策定にあたり、まず想定する面積や必要な機能等の骨組みを整理して事業者に提示する予定である。その後、整備候補地にその条件の施設を建設した場合の具体的な資料を作成してもらい、概ね来年の 8～9 月頃にはその資料が示される見込みである。その段階で改めて整備検討会に提示し、意見を伺ったうえで、その資料を活用してワークショップを実施する予定である。そのためワークショップの時点では、想定される面積や規模、機能等が、イメージ図によって具体的に確認できるようにしたいと考えている。

- ・ワークショップの進め方について、豊四季台地域ふるさと協議会の取り組みを参考にするのはどうか。豊四季台では、若い世代や建築・まちづくりに関心のある人たちでチームを設け、住民の声を反映したまちづくりを進めているとのことである。そこで、実際に活動に携わった方に取り組みを紹介してもらい、今回のワークショップの企画

や進め方を考える際の参考にするのはどうか。また、豊四季台地域ふるさと協議会の資料も共有できるので、必要であれば活用して欲しい。

- ・業者選定後の段階で、貸室を1部屋増やす等の柔軟な変更は可能か。用途をあらかじめ決めないフリースペースを確保し、ワークショップでその活用方法を参加者と検討することもできるのではないか。例えば 50 平米程度をフリースペースとして予算計上することは可能なのか。

(市) 業者選定では、あらかじめ提示した案をそのまま実現できるかではなく、提示した条件に対するアイデアやワークショップの進め方、実績等の業者の提案力を評価する。

(市) 選定された事業者とは、ワークショップで新たな部屋やスペースの要望が出た場合、フリースペースの仕様によっては、専門的な知見を踏まえてコストとのバランスを見ながら整備内容の可否を検討することが必要となる。

(市) 柏市としては、検討会からアイデアや運用上の希望を出してもらい、子どもや若者など幅広い世代から意見を聞き、それらを踏まえた案を検討会にフィードバックし、さらに意見を取り入れていくという段階的な形で進めたいと考えている。また、豊四季台地域ふるさと協議会による勉強会についてもご意見をいただいたので、そこを踏まえつつ具体的な進め方を検討するが、ワークショップは現時点で3回程度を予定している。次回の検討会まで期間が空くため、進捗や予算計上の状況等を適宜メールやホームページで情報提供し、各団体や関係者にも共有できるようにしていく。

4 閉会